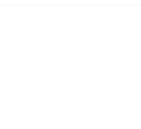
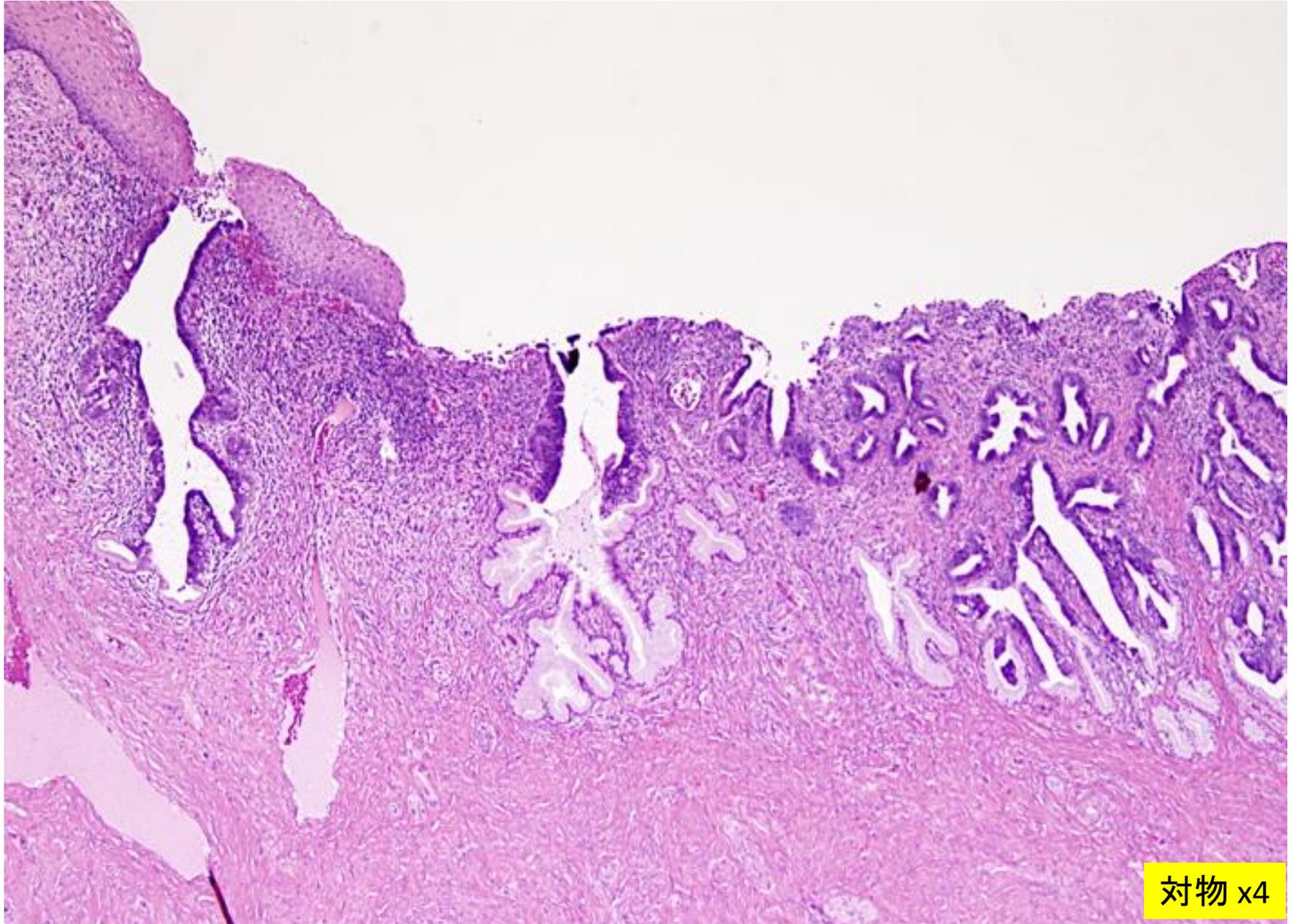


症例 1 解説

解答

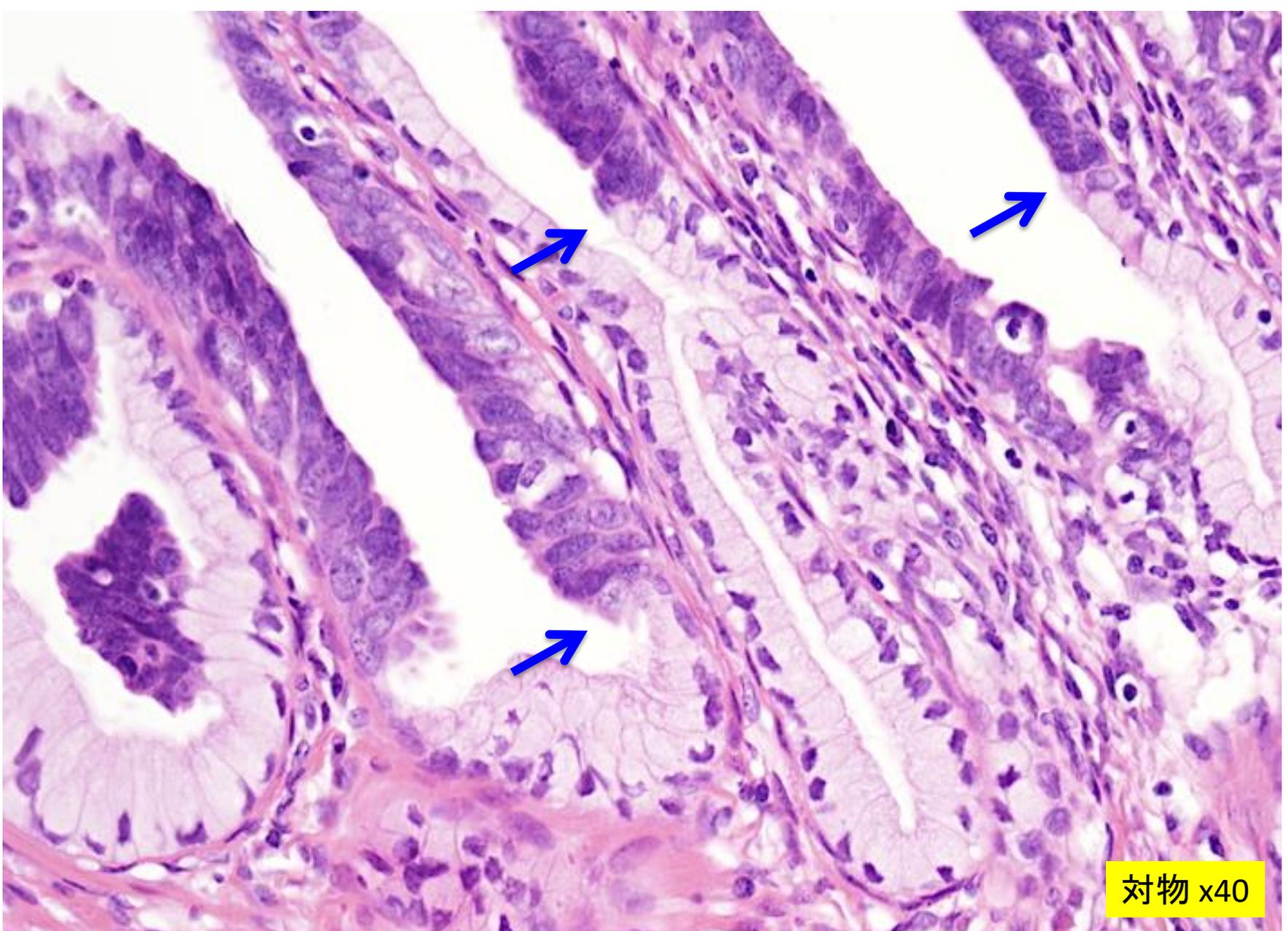
Adenocarcinoma *in situ*
(AIS)





対物 x4

肉眼的に病変は認めず。組織学的に、SCJから内頸部側にかけて、頸管上皮内に増殖した病変である。間質浸潤は認めない。



対物 x40

核の腫大、大小不同を示す異型腺細胞が重層化を呈している。癌部と非癌部とが明瞭な境界をなして接している。（→；フロント形成を認める）

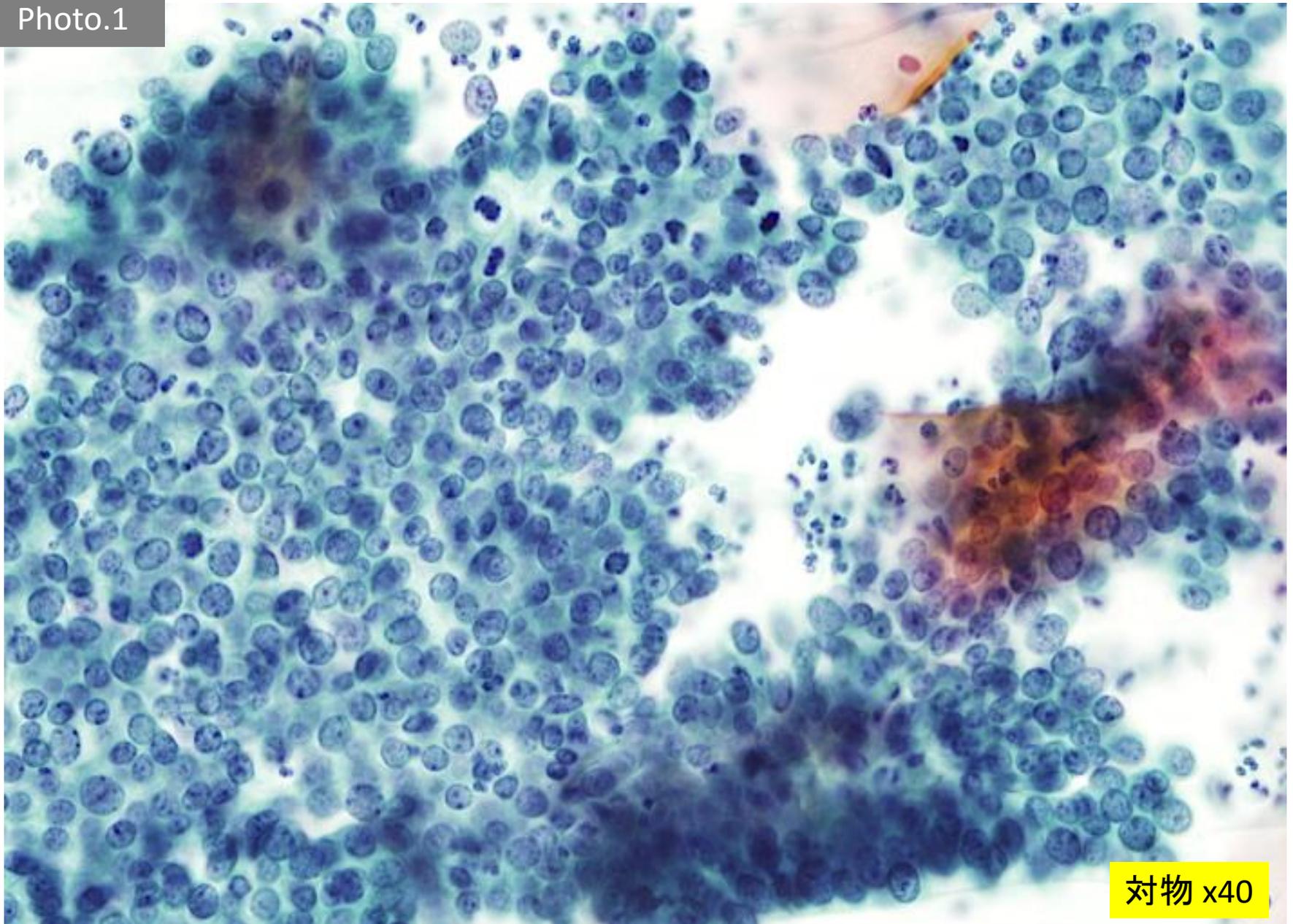
組織学的診断

Adenocarcinoma in situ of the uterine cervix.

子宮頸癌取扱い規約（第3版）

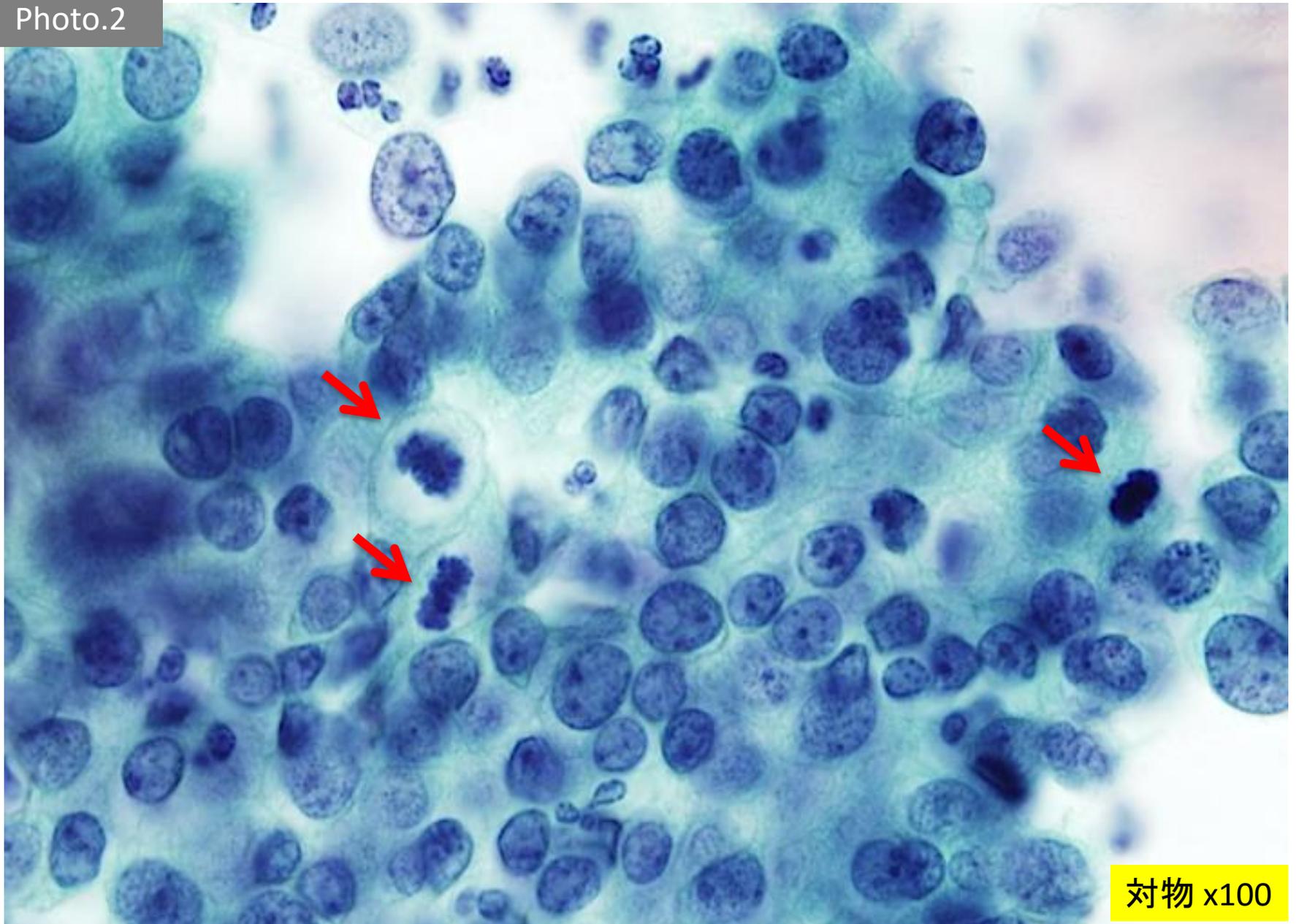
細胞学的に悪性の腺上皮細胞が正常の内頸腺の構造を
保ったまま上皮を置換して増殖するが、間質への浸潤
を示さない病変である。

腺管内で部分的にみられる場合は正常内頸腺上皮との
境界は明瞭である。



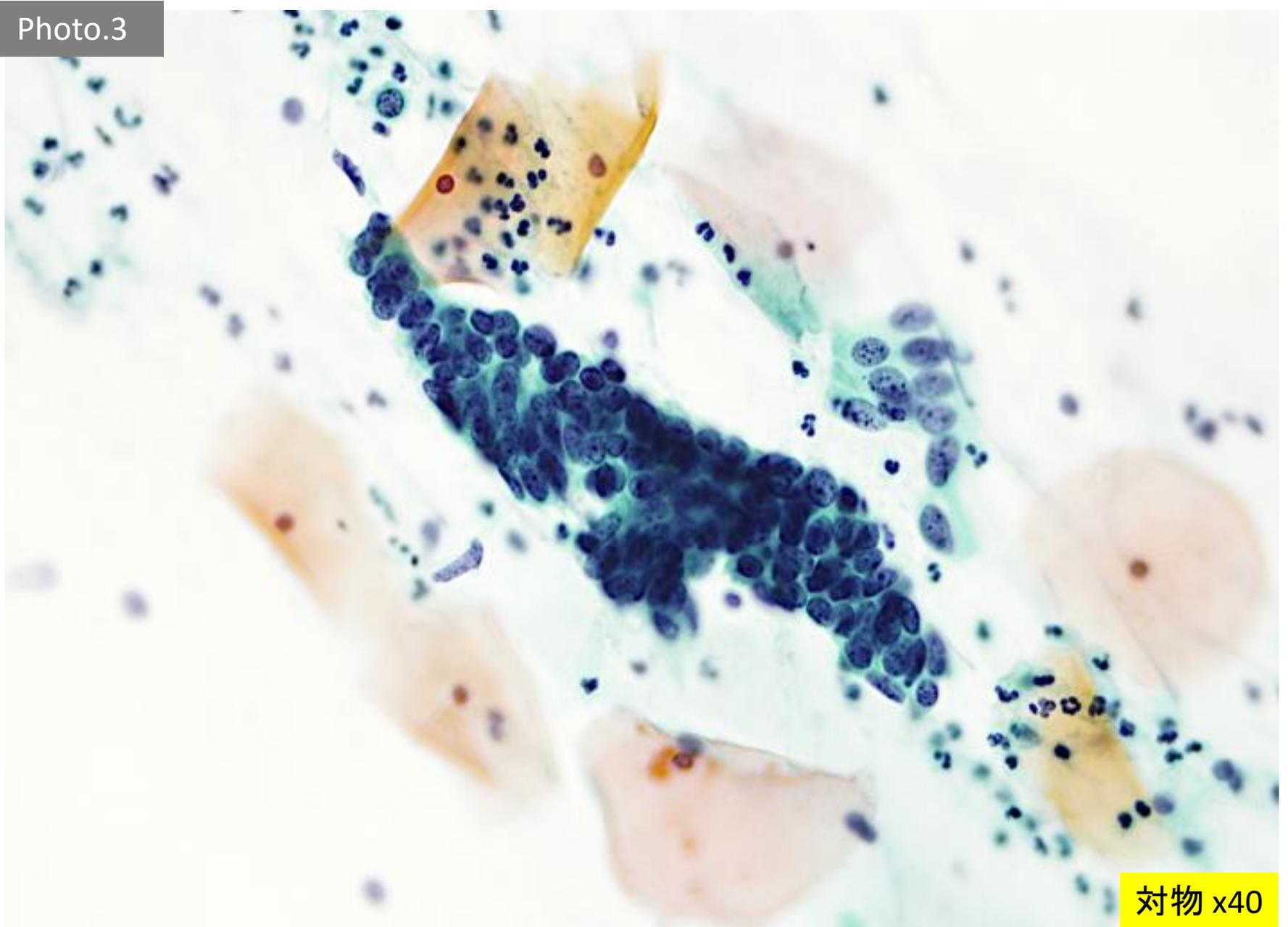
対物 x40

シート状集塊。集塊辺縁では柵状配列を示し腺細胞由来である。正常頸管線細胞と比較し、細胞質に粘液を有さず、核の圧排されていない細胞である。



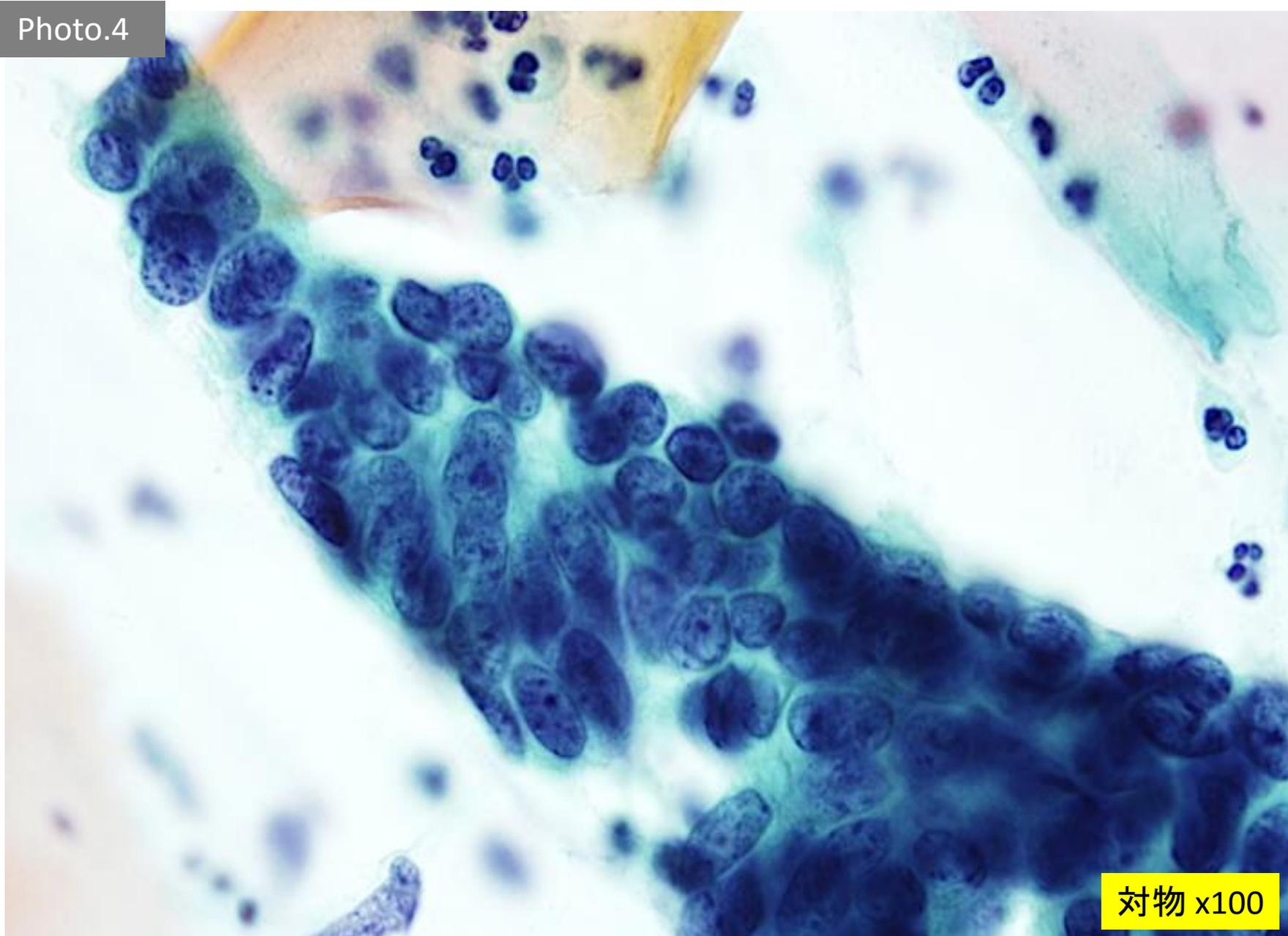
対物 x100

類円形核主体の細胞で、核クロマチンは細顆粒状に増量する。
核分裂像を認める（→）。AISでも高頻度にみられる所見である。



対物 x40

濃染核細胞からなる集塊。集塊辺縁では柵状配列を呈し、不規則重積性を認める。



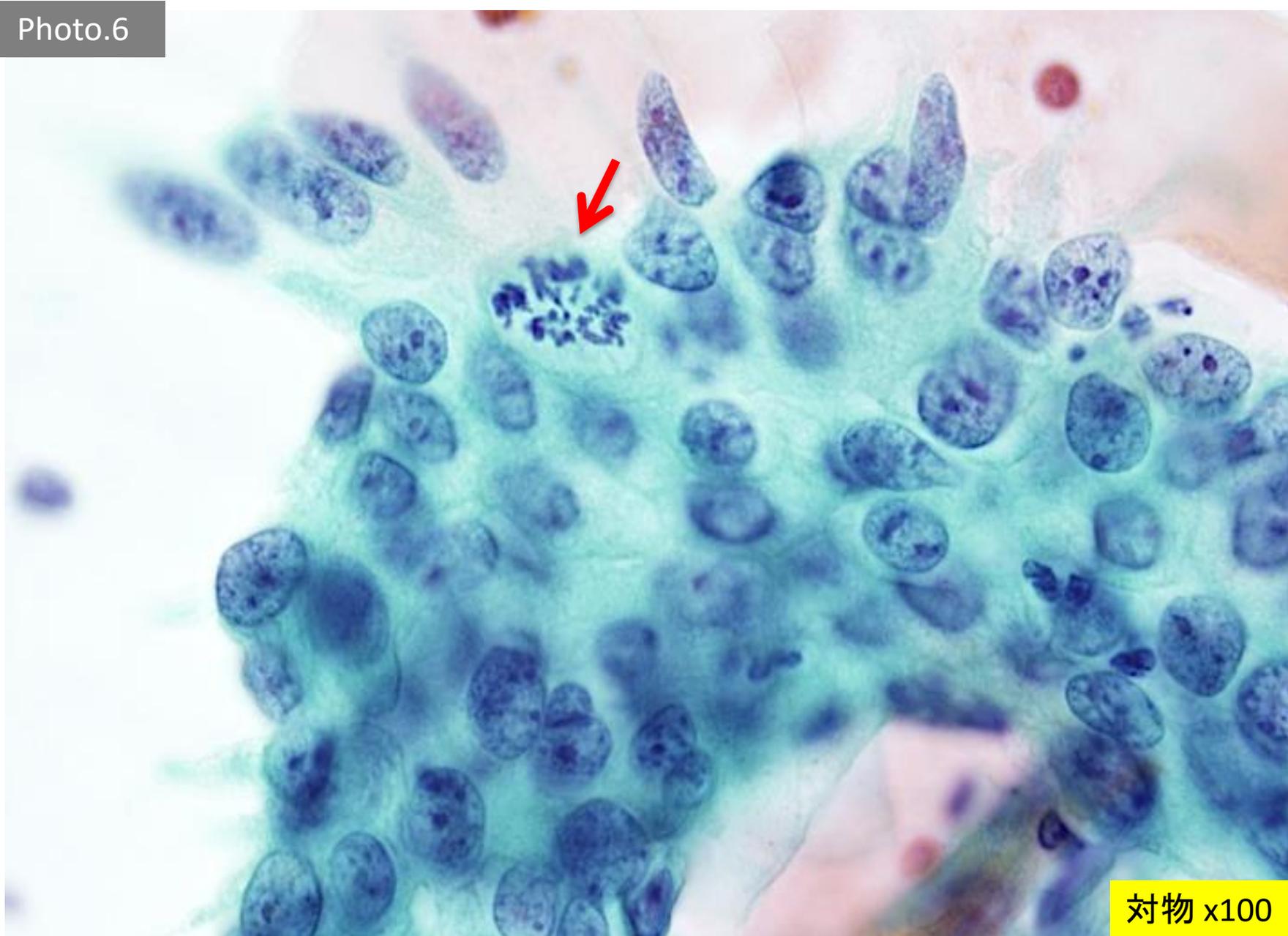
対物 x100

シート状集塊の細胞と比較して濃染核を呈する細胞である。
柵状配列、小腺腔様構造を認めることからAIS由来の細胞である。



対物 x40

きれいな背景に、高円柱状の異型腺細胞が、柵状配列および毛羽立ちのあるような辺縁（いわゆる羽毛状）を示す集塊で認める。



対物 x100

核は類円形、核クロマチン細顆粒状の腫瘍細胞で異型は目立たない。
核分裂像を認める（→）。

選択肢

1. AGC

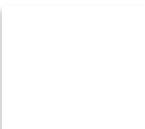
(異型腺細胞; Atypical glandular cells)

2. AIS

(上皮内腺癌; Adenocarcinoma, in situ)

3. Adenocarcinoma

(腺癌)



細胞所見；

細胞集塊は、シート状、柵状や羽毛状集塊、また腺腔様構造など多彩な像を示しており、また核分裂像を認める。しかしながら、背景がきれいであり、細胞の多形性がないことよりAISを推定する細胞像である。

• Photo.5/6；AISと判定可能

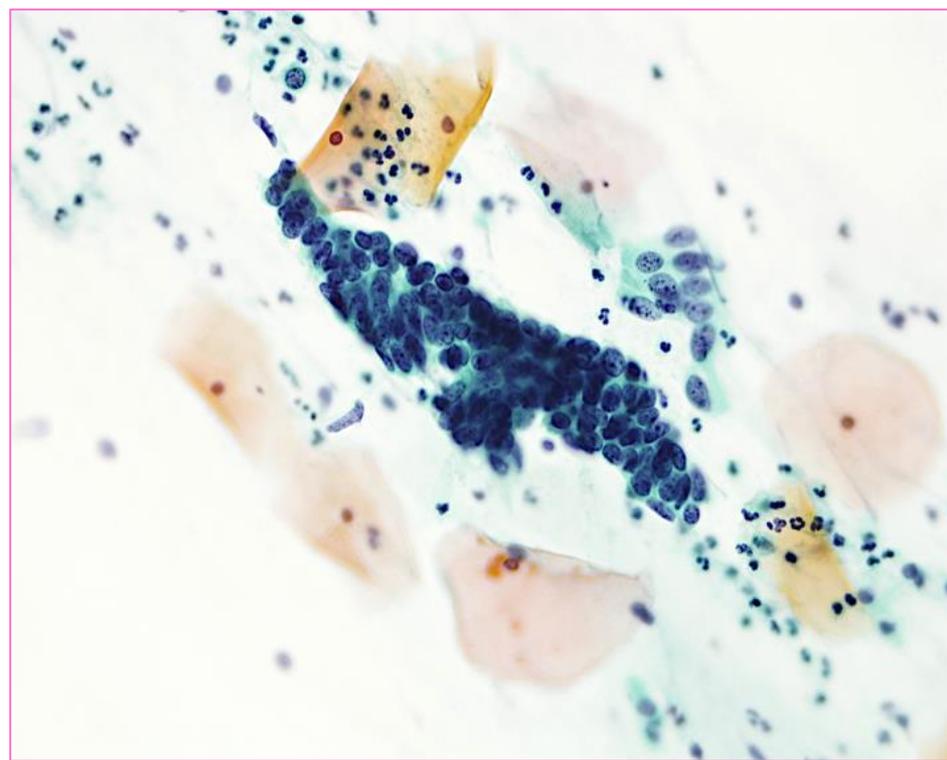
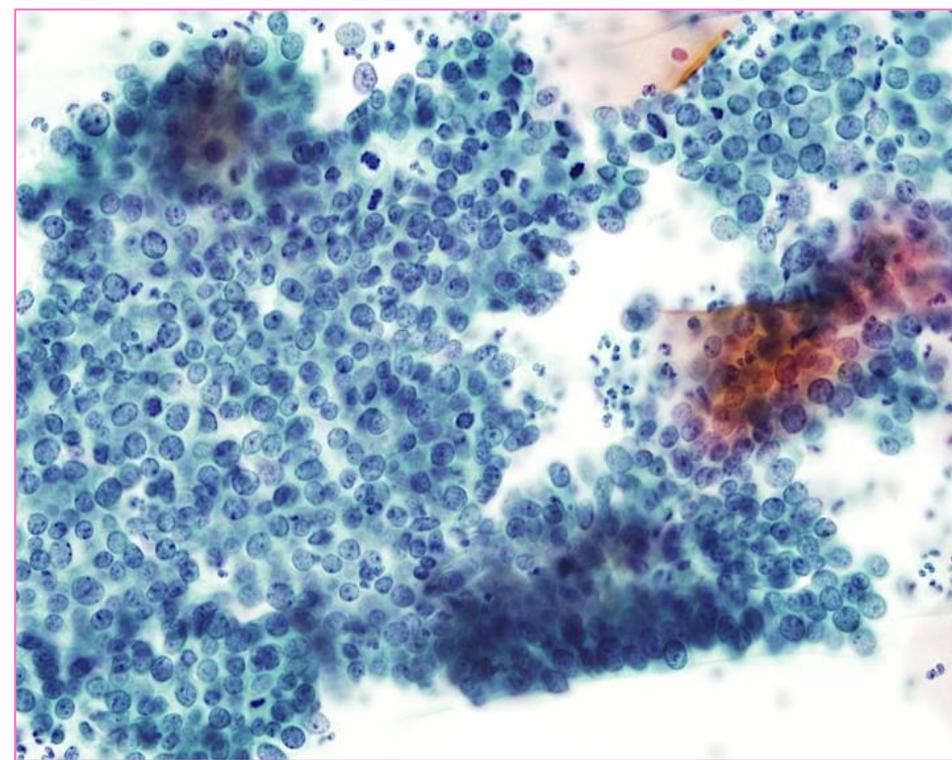
- Photo.1/2；シート状集塊
- Photo.3/4；濃染核細胞からなる集塊
- Photo.1/2、5/6；核分裂像を認める

AISかどうか
悩むような
所見・・・

or

浸潤性腺癌

(AGCは問題外)



シート状集塊。濃染核を呈する集塊。核分裂像。



ポイントとなる細胞所見



細胞診AISと判定し、組織学的に上皮内腺癌および非浸潤性腺扁平上皮癌と診断された15例の細胞学的所見

(非浸潤性腺扁平上皮癌；CISとAISが移行/混在する病変)

○背景きれい（全例）

○集塊の形状

- ・腺腔様（13例）
- ・羽毛状（11例）
- ・シート状（7例）

○核クロマチン

- ・細顆粒状（14例）
- ・濃染核細胞（8例）

○核分裂像（10例）



上皮内腺癌における重要な細胞所見

1) 背景

- きれい

2) 集塊

- 柵状配列
- 羽毛状配列
- 腺腔様配列
- シート状配列

3) 細胞所見

- 高円柱状

4) 核型

- 類円形核
- 楕円形核

5) 核クロマチン

- 細顆粒状均一
- 濃染核

6) 核小体

- あまり目立たない

7) 核分裂像

- 出現頻度が高い

まとめ

AISの重要な細胞所見として、

- 1) 背景が**きれい**である。
- 2) 柵状・羽毛状集塊に加えて、**シート状集塊**にも着目する。
- 3) 核クロマチンは、細顆粒状とともに、**濃染核細胞**も重要である。
- 4) **核分裂像**は出現頻度が高い。

